

音楽会を振り返って

2022.11.21 校長 西谷 秀幸

先週の金曜日、土曜日は4年ぶりの音楽会でした。

トップバッターは、3年生。赤と黄色の衣装が素敵でした。3年生は、ボディーパーカッションがとても上手でしたね。そして、なんとと言っても「カスタネットアンサンブル」。カスタネットという楽器でこんなに素敵な音楽ができるんだ…と感心しました。曲の最後が近づくにつれ、スピードがどんどん速くなって、そして最後の決めのポーズ。とても迫力があって、カッコ良かったです。



次は1年生。ミッキーマウスマーチがとても上手でしたね。終わった後、ミッキーの手袋で手を振ったり、ミッキーの声真似をしてくれたりしましたよ。

Believeと手話は、何度聞いても心が温かくなりました。特に、歌の最後の手話のところが大好きで校長先生もそこだけ1年生の真似をして手話をしていました。手話と歌、どちらもとても上手でした。

2年生は、とても楽しいわらべうたメドレーでした。校長先生は、「チチッ」ってやるのがとても面白くて、いつも真似をしていました。「あんたがたどこさ」のボールつきや「いるかはざんぶらこ」のバンブーダンスも上手でしたね。ボディーパーカッションと段ボールで作った楽器「ダンホン」も、とても素敵で、終わってから教室でダンホンを使わせてもらいました。

2日目の最初は4年生。ハンドベルの音がとても綺麗で、手を上に上げながら演奏する姿も上手で感心しました。4年生には、何度も伝えたのですが、4年生のディズニー音楽を聴く度にディズニーランドやディズニーシーに行きたくなります。音楽会本番では校長先生の話のときにミッキーの声で応援し、体育館ではミッキーの手袋をして手を振っていたのですが、4年生は気が付いたでしょうか。楽しくてワクワクさせる曲と歌でした。

5年生は、運動会に引き続いて、曲紹介から笑わせてくれましたね。そんな5年生のパフォーマンスが校長先生は大好きです。ラテン音楽もブラジルを思い出させてくれるようなノリノリの曲が本当に楽しかったです。首にブラジルの笛をかけて、校長先生もみんなと心を1つにして楽しく聴いていました。歌もアンサンブルも合奏も、体が自然に動いてくるリズムにたくさん楽しませてもらいました。

そして、6年生。どの学年も上手でしたが、6年生はやっぱり次元が違いましたね。曲の迫力、美しいハーモニー、ノリノリのリズム…。リハーサルのときより、何倍もバージョンアップしていて、本当に凄いと思いました。こんな素晴らしい演奏を曲を聴いちゃったので、自然にアンコールの声が出てきました。手が痛くなるほど、大きな拍手をした、最高の演奏でした。

歌もさすがは6年生でした。先生が見せていたスケッチブックの内容が気になって、終わってから見せてもらいましたよ。指揮者と心が1つになって、最高のハーモニーを作り上げていました。

4年ぶりの音楽会でしたが、間違いなく、成丘の歴史に残るような素晴らしい音楽会で皆さんからたくさんの笑顔と感動をもらいました。皆さん、素敵な時間をありがとう。音楽会委員の皆さんも本当によく頑張りました。

ちなみに、音楽会が終わった後、6年生は疲れているのにもかかわらず、体育館で片付けをしてくれました。今日も6年生がその続きをしてくれます。これまでも何度か話しましたが、楽しいことや心に残る行事があったときは、必ず「見えないところで、支えてくれている人がいる」ことを忘れないでください。6年生に会ったら、「6年生、ありがとうございます」と「ごさいます」を付けて御礼を言いたいですね。

さて、話は変わりますが、今日から2週間、「読書旬間」です。今日、2年生の1万ページ修了証を紹介しましたが、今年はずでに18人の人が1万ページを読み、3万ページを超えた人も3人います。達成した人は、担任の先生と校長先生に教えてください。

もし、オンライン朝会の際に、みんなの前でもらうのが恥ずかしい人は、休み時間に渡しますから、そう言ってくださいね。

これで朝会のお話を終わります。

(裏面に「先生方へ」があります)

〈先生方へ〉

先週は、4年ぶりの音楽会、お疲れさまでした。コロナ禍になった平成2年度から、特に2年間は、感染予防ガイドラインにより、歌だけでなく、鍵盤ハーモニカやリコーダーなどの指導の積み重ねが難しく、音楽会のような行事もできなかった中で、今回、この行事を行うことができたことは、本当に感謝しかありません。楽器の数、児童数、先が見えない感染状況など、様々な苦難を乗り越えて実施できた今回の音楽会、音楽専科の千葉先生や音楽講師の小尾先生、小野寺先生、担任の先生方、専科の先生方をはじめ、全教職員の力を結成できたからこそその成果だと思えます。皆さん、ありがとうございました。

さて、今日から「読書旬間」が始まりますが、読書の効果については、すでにご存じのことと思います。集中力や言語活動を充実させる基盤をつくるためにもすきまの時間も効果的に活用しながら読書指導に力を入れていってください。

読書離れは、子供たちだけでなく、大人も例外ではありません。しかし、面白い本に出会ったり、趣味合う本を見付けたりするなど、ちょっとしたきっかけで読書好きになることがあります。ですから、私たち大人が子供たちに読書の楽しさを機会があるごとに伝えていただければと思います。読書は、心を豊かにします。知識を広げます。想像力を高めます。物語でも、ノンフィクションでも何でもいいので、とにかく本を読む子を育てたいですね。なお、本の「読み聞かせ」は、様々な効果があります。国語の授業の初めや終わりの5分間、授業の隙間の時間などに、「読み聞かせ」を続けるのもいいと思います。すでに実践されている先生もいますが、中休みや昼休み終了後、早く戻ってきた児童に「読み聞かせ」をすることで、子供が次の学習に集中して取り組めるとともに、「早く戻ってくると得をする」という意識をもたせることができます。「読み聞かせ」は低学年だけでなく、高学年においても有効です。ぜひ、クラスごとに何らかの取組をしてみてください。

また、今日から個人面談が始まります。保護者の中には、もしかしたら、「何を言われるんだろう…」と不安感でいっぱいの方もいるはずですが、ですから、「時間をつくって来て良かった」と思える面談にすることが大切です。もちろん、伝えるべきことはきちんと伝えなくてはなりません。ですから、課題面は「事実」で伝えるようにしましょう。先生方には「釈迦に説法」だと思えますが、事実かどうか定かではない内容に担任の「推測」加えて課題面を伝えると、こじれるもとになります。課題は、解決策も同時に伝え、それ以上に、がんばっているところは「事実+担任のプラス評価」でほめて伝えるようにしましょう。今年度の個人面談は「2学期の所見」を伝える面談でもありますので、どうぞよろしく願います。

【資料1】 11月について

11月はグレゴリオ暦で年の第11の月に当たり、30日間ある。日本では旧暦11月を霜月（しもつき）と呼び、現在では新暦11月の別名としても用いる。「霜月」は文字通り霜が降る月の意味である。他に、「食物月（おしものづき）」の略であるとする説や、「凋む月（しばむつき）」「末つ月（すえつつき）」が訛ったものとする説もある。また、「神楽月（かぐらづき）」「子月（ねづき）」の別名もある。

英語での月名、November（ノーヴェンバー）は、「9番目の月」の意味で、ラテン語で「第9の」という意味の「novem」の語に由来している。実際の月の番号とずれているのは、紀元前46年まで使われていたローマ暦が3月起算で、（そのため年末の2月は日数が少ない）3月から数えて9番目という意味である。